



浜辺たんけん（組合せ事例）

活動のねらい

- 琵琶湖の浜辺に生息する生き物を観察することを通して、命のつながりと琵琶湖を取り巻く環境について考える。

【時期】 通年

【場所】 ●今津 ●近江舞子 ●琵琶湖大橋

【時間】 約60分～約120分

【準備物】 ●ザル ●バット ●ルーペ ●網
●水槽 ●プランクトンネット
●フィルムケース（プランクトンを入れる）
●サンダル（各自） ●箱めがね
●図解ハンドブック「滋賀の水生物」

主な活動の流れ

事前学習

- 地域の河川（用水路等を含む）の水生物を観察する。（どんなところにどんな生き物があるか）水質（にごり・色・におい等）と水生物の関係を調べる。

びわ湖の浜辺にはどんな生き物がいるのだろうか？

○「生き物をとろう！」

- ① 網等を使って湖岸の生き物（魚・エビ等）を捕獲する。

※魚捕り用の網を必要数準備できるとよい。

※「特製四手網」（天秤状で先端に四手網をつけ、反対側を下げると楽に網を引き上げることができる）を使用することで、網を持って捕ることが困難な児童も活動できる。



- ② 捕れた生き物を水槽に入れて、観察する。

○「プランクトンを採ろう！」

- ① 琵琶湖の水をバケツですくひ、プランクトンネットに流し、プランクトンを採取する。
- ② 採れたプランクトンをフィルムケース等に入れ、「プランクトンウォッチング」で使用する。（航海ガイド P. II②-9参照）

○「ストーンペインティングに挑戦！」

- ① 浜辺の石の特徴を観察する。
※近江舞子、琵琶湖大橋では、火成岩が多い。
※今津では堆積岩が多く、いわゆる「はちまき石」が見られる。
- ② 気に入った石にペイントをする。

○「水生物ウォッチング」（航海ガイドP. II①-11参照）

○「水草ウォッチング」（航海ガイドP. II①-9参照）

○「湖岸たんけん」（航海ガイドP. II④-7参照）

○「冬の水鳥観察」（航海ガイドP. II①-13参照）【冬季プログラム】

※活動時間が長い場合はローテーションでの活動、短時間の場合は選択活動としてもよい。

- 浜辺に生息する生き物の種類と水質（にごり・色・におい等）の関係について考える。
- 地域の河川の水生物と琵琶湖の水生物とのちがいを調べる。
- 私たちの生活と、生き物や水を取り巻く環境や命のつながりについて考える。

フ
ロ
ー
テ
ィ
ン
グ
ス
ク
ー
ル

事後学習